



長門の話題 Topics

市内3カ所で蚕祭り

幻想的な一夜を楽しむ

6月6日(土)、宗頭文化センターで「三隅上地区ホテルまつり」が開催され、蚕鑑賞やバザーを楽しもうと約500人が来場しました。
日が暮れると、来場者は権の木橋周辺に移動し飛び回る蚕の淡い光を楽しみました。13日(土)には、JR渋木駅周辺で「第7回蚕のふる里まつり」

が、依山では頭振川砂防公園駐車場を会場に「第14回手作り蚕祭りin依山」が開催されました。両会場には焼き鳥などのバザーが出店し、多くの来場者でにぎわいました。買い物や食事を楽しんだ来場者は、鑑賞ポイントに移動し、蚕の幻想的な光を静かに見つめていました。

川尻地区で防災訓練

「もしも」の危機に備える

5月24日(日)、川尻地区に大雨による避難勧告が発令されたとの想定で、地区住民約140人、市・消防などの関係者約100人が参加して防災訓練が行われました。
訓練では、告知放送や広報車から避難勧告を受けた住民が、川尻漁村センターに避難しました。海上では、救助部

隊の投入や海中転落者救出訓練が実施され、傷病者の傷病の緊急性や重症度に応じて治療の優先順位を決定するトリアージ、倒壊家屋からの救助やヘリ搬送が行われました。
炊き出し訓練では、陸上自衛隊と住民の手で作られたカレイライスが参加者に配られました。



▲三隅上地区ホテルまつりではホテルかご作りも行われた



▲JR 渋木駅周辺がメイン会場の蚕のふる里まつり



▲依山では、依山中学校閉校メモリアルイベントが実施された



▲川尻漁村センターに避難する住民の皆さん



▲症状を確認して治療の優先順位を決める「トリアージ」

みすみハーブを楽しむ日

ハーブづくしの一日を満喫

6月14日(日)、香月泰男美術館横のふれあい広場で、「みすみハーブを楽しむ日」が開催されました。

会場には、ハーブグッズやハーブと花の苗、新鮮野菜などの販売、焼きそばや焼き鳥などのバザー、カフェコーナーがオープン。ハーブ

テイーやお菓子を味わったり、スタンプリリーや木工アートに挑戦してみたりと、ハーブの香りが舞う会場で、多くの来場者がイベントを楽しみました。

隣接するハーブ園では、20本で100円のハーブの摘み取りが人気を集めました。



▲ハーブ園は摘み取りをする人でにぎわう

国勢調査長門市実施本部を設置

今年10月は国勢調査

6月1日(月)、市役所企画政策課内に平成27年国勢調査長門市実施本部が設置されました。国勢調査は、国内の人口や世帯の実態を明らかにするため5年に一度行われ、今回は平成27年10月1日午前0時現在、国内に常住するすべての人を対象に行われます。



▲大西市長と津室企画総務部長が看板を設置

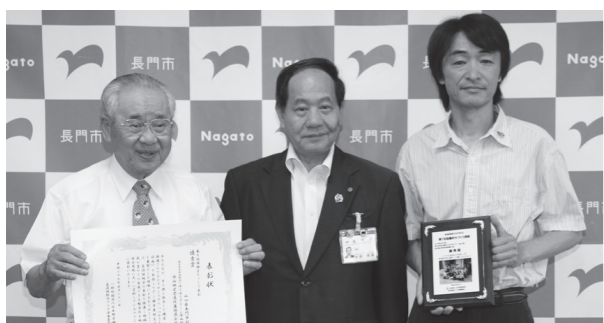
依山区2団体が協働まちづくり表彰で優秀賞

都市農村交流活動が評価

6月2日(火)、依山区発展促進協議会の藤野忠次郎会長とNPO法人ゆうゆうグリーン依山の中原英樹理事長が、西市長を訪ね、「第7回協働まちづくり表彰」優秀賞の受賞報告をしました。

5月20日(水)～22日(金)に東京ビッグサイトで開催され

た第19回自治体総合フェア2015で、市民協働による依山区での都市農村交流などの活動に対し県内で初めて優秀賞が贈られたものです。藤野会長は「今後も交流を続けていきたい」と話し、中原理事長は「楽しみながら交流を進めたい」と述べました。



▲報告に訪れた藤野会長(左)と中原理事長(右)

三隅・清風神社で清風祭

功績と遺徳に理解を深める

江戸時代後期に長州藩の財政改革を行った村田清風の功績をたたえる清風祭が5月26日(火)、村田清風記念館横の清風神社で行われました。

出席者全員が玉串を奉納したあと、村田清風顕彰会の大谷喜信会長の講演が行われ、参列した関係者は清風の遺徳に理解を深めていきました。



▲大谷会長(中央)による講演の様子

来年も美しい花が咲くように

5月31日(日)、約3万本のシヤクナゲが植えられている俵山のシヤクナゲ園で花がら摘みが行われました。シヤクナゲは花がらを落とさなければ次年度の咲きが悪くなることから、毎年この時期にボランティアの手で花がら摘みが行われています。

グリーン俵山の呼びかけにより、約90人が参加しました。このうち半数以上が地区内からの参加でしたが、下関市立大学の学生など地区外からの参加もありました。約2時間の作業が行われ、終了後には参加者に俵山産の米を使ったおにぎりなどが配られました。



▲約3万本のシヤクナゲの花がらを90人のボランティアが摘む

直売所への期待が高まる

「仙崎地区ブランドデザイン基本計画」に基づき直売所について、市民と共に考える「魅力あふれる交流拠点を考えるシンポジウム」が6月3日(水)、仙崎公民館で開催され地域住民など約130人が参加しました。

経済学部教授が、他地区の道の駅の実例や経営のヒントについて講演しました。続いて、地元関係者をパネラーとしてパネルディスカッションが行われ、直売所へ期待している、ぜひ成功させ長門を活性化させたいという意見が出されました。



▲仙崎地区をオンリーワンの場所に、と内田教授

園児が苗植えに挑戦

6月9日(火)、開かれた農場づくりに取り組む大津緑洋高校日置校舎で、日置保育園の園児がサツマイモの苗植えを体験しました。同校の生物生産科に通う3年生13人が指導を行い、約30人の園児たちは、植え方を習いながらサツマイモの苗植えに挑戦しました。



▲高校生に習いながら苗植えに挑戦

薬物乱用の怖さを訴える

「国際麻薬撲滅デー」(6月26日)に合わせ、薬物乱用防止ヤングキャンペーンが6月14日(日)、市内2カ所のスーパードで行われました。山口県薬物乱用防止推進員や保護司会会員、高校生約20人がうちわなどを配り、薬物の乱用防止を訴えました。



▲買い物客に声をかける

長門のPeople

長門の鶏が、大好きです。

廣瀬 水彩子さん (深川養鶏農業協同組合)

※仕事は

生産部に獣医師として勤務しています。定期的な検査を通して、病気になる鶏の治療などを行っています。

※就職のきっかけは

昔から鶏肉を食べるのが好きだったこともあり、鶏専門の獣医師になって、養鶏業に携わりたかったからです。

※趣味は

電車に乗る事です。休日は山陰本線に揺られて買い物に出かけることもあります。

※長門市の好きなところは

海がきれいなところです。もちろん、鶏肉は大好きです。

※今後の目標は

養鶏農家さんに適切なアドバイスができるように、早く仕事を覚えて、知識を身につけることが一番の目標です。

※最後に一言

素晴らしい上司や先輩方に囲まれ、楽しく仕事ができます。早く一人前の獣医師になれるように、がんばってきたいと思います。



熱血！新鮮力



深川小学校、向陽小学校の児童がアユを放流

大きくなれと願いをこめて

5月22日(金)、深川川河川公園で、深川小学校の4年生91人がアユの放流に参加しました。児童たちは、体長約20センチ、重さ約10グラムのアユの稚魚が10匹ずつ入ったバケツを手渡され、川岸から放流しました。

また同日、向陽小学校の5、6年生19人も、深川湯本の義

隆橋下の深川川でアユを放流しました。この日放流された稚魚は昨年よりも多く、両校合わせて2万匹でした。主催した深川川漁業協同組合では、4月15日(水)にも義務放流として2万8千匹のアユの稚魚を放流しており、ほかにもウナギやカニなどの放流を行っています。



▲「大きく育てね」と願いをこめてアユを放流



▲アユの稚魚はバケツの中を元気に飛び跳ねる